



「会計情報の活用」 学習指導案

●本時のテーマ

「会計情報を開示・活用することの社会的な意義」

●本時のねらい

- 会計情報の概要とその活用の意味について図解や時事的な記事から理解することを通して、会計情報の開示が企業の責任として必要とされる理由を考察する。

●評価規準

- 会計情報の活用についての基本的な理解を基に、会計情報の開示が必要とされるのはなぜか、効率と公正などの視点を踏まえて考察している。

●本時の流れ

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	「会計」のイメージをつかむ	<p>●発問：「身近な生活の中で、『何かに取り組んだ成果を数字で説明するもの』には何があるだろうか。それらはどんな目的で使われているか」</p> <p>(例：成績表、部費の会計報告、買い物のお使い)</p> <p>⇒目的：できていること／できていないことを把握する、不正使用していないと納得してもらおう、親に頑張りをアピールする</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 会計 (Accounting) の意義を「客観的な数字で説明責任を果たすこと」と捉え、それを生活経験の中からイメージさせる • 「会計監査」に触れてもよい • 「義務でなくても積極的に報告したいか」なども考えさせるとよい
展開	企業会計の概要とその活用の意味を理解する	<p>※解説：企業もまた、事業に取り組んだ成果を数字で報告する。その代表的な制度が、貸借対照表や損益計算書などの財務諸表の公開である。このような会計情報は、法律によって開示が義務付けられている</p> <p>教材① 企業の生産活動と企業会計</p> <p>教材② 決算報告にみるコロナ禍の影響 (朝日新聞 2021年5月7日より)</p> <p>●発問：「教材①②のような会計情報は、『誰にとって』『どんな目的で』役立つか」</p> <p>(解答例：株主、投資家、就職先を決めようとしている人、税務署…)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 貸借対照表や損益計算書の事項解説はしない • 教材② を通して、新聞を読むためには予備知識が要ることを意識させ、社会的事象に関心を持たせる • 教材② は時期や状況に合わせて、他の記事に差し替えても良い • 株式会社に関する既習知識と関連付ける

